

朝日連峰・金目川左俣

木下

【日時】2012年9月15-17日

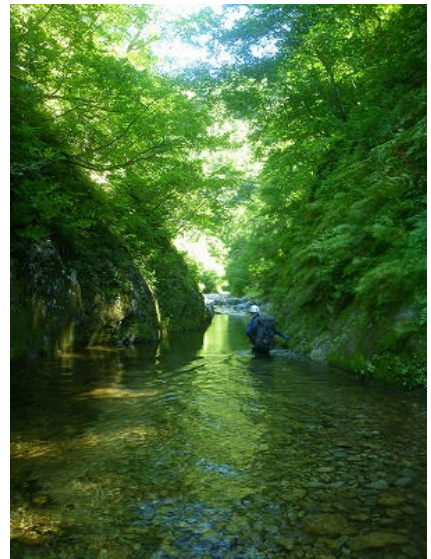
【メンバー】L木下 棚橋 佐貫

金目川左俣の「井戸の底のような」と形容される最狭部は今までに経験したことのない「異系空間」。連続するゴルジュに内蔵された滝・淵は大滝付近を除いてすべて水線を通過することができる、遡行する面白さを満載したインタレスティング・グレードの高い銘渓でした。

9/15 晴

下山地点の針生平・大石橋に車をデポし、タクシーで入山する。大規模林道はきれいに舗装されており、小枕山トンネル先のゲートまで入れる。ここから10分ほどで金目川にかかる橋より入渓する。淡いピンク色を織り交ぜた花崗岩が美しいゴーロ・大岩を縫って登る。ここ1カ月は雨が降っていないとのこと、水量は少なく日差しがじりじりと暑い中、長閑な流れをたどって行く。

川が大きく東に向きを変えるようになると所々淵が出てくる。しばらくで4m魚止めの滝、荷が重いので慎重に空身で登りロープをフィックスする。続く5m逆くの字の滝も同様に左岸から越した。直ぐ上に白いプライベートビーチのような台地が！！この先に



は広い幕場適地は望めそうにないので、ここで本日終了。盛大な焚火をして午後の優雅な時間を過ごした。

9/16 快晴

気合を入れて5:45出発。5分で二俣、やや水量の少ない左俣に入る。兩岸が狭まるがしばらくは平凡。次第に小滝が現れゴルジュとなる、釜をもった小滝（3mほどが多い）を楽しみながら越していく。標高700m付近で一旦ゴルジュ

ユが切れるが直ぐに白い岩質のゴルジュに入る、次々と通過していくとホールドのなさそうな4m滝が現れる。落ち口への一步のスタンスがない、棚橋さんがスカイフック+シュリングアブミで突破。今回はスカイフックが大活躍する。

右岸：オーバーハング、左岸：スラブで始まる3番目のゴルジュは易しい3m斜滝を登っていくと深い切れ込みとなる。挟まれた岩の割れ目に入っていくと、そこは見たこともない「異系空間」であった。巾1m以下であろう兩岸を使って突っ張りや泳ぎ、シャワークライムで突破していく。「登れない滝が出てきたら振出しに戻る、だね～」と言

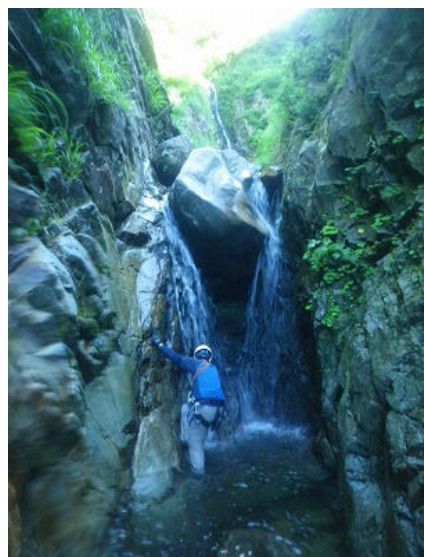


いながら進む。滝が出てくると「う～ん、どうする？」と顔を見合わせ相談。でも何とか登れてしまう、痛快なゴルジュであった。沢が左折すると明るくなり右岸にスラブが展開する直線状のゴルジュ。深い谷底にも日が差しかかり日なたで大休止、さすがに体が冷えたようだ。

正面に急峻なルンゼが入り沢は直角に右折、2条10m、10mと連瀑が現れた。下の滝は右岸から快速に直登、上の滝は左岸より巻き気味に通過する。ここで沢は久しぶりに穏やかな表情となりBPも現れる。しかし直ぐに直線状のゴルジュ

となる。やや手ごわい7m滝を空身+シャワークライムで登り、深い淵を倒木にすがって越していくと出口にCS滝。一步のスタンスが難しく、ここもスカイフック+アブミのワンポイントAIで通過する。前方には20m大滝が構えている、直登には時間がかかりそうなので左岸のルンゼから高巻く、50mほど登ってトラバースしていくが大滝上部にも連瀑が懸かっているので右沢まで巻いて奥の二俣へ降りた。

左沢に入ると急に水が少なくなるが次々と滝が現



れ気を抜けない。微妙な一步の滝が多く、トップ空身で突破+荷揚げのパターンで通過するがすべて登れるところが楽しい。

標高1150m付近で水がなくなり、草付+露岩部分を使いながら高度を上げる。藪こぎ10分で登山道に出た。二俣より8時間半ほどの所要時間であった。



荷物をデポして、祝瓶山山頂へ。素晴らしい展望で大朝日岳を筆頭に朝日連峰の山と谷、葉山の右手には木地谷ダム～山形の平野。小国の盆地を挟んで飯豊連峰、真中に梅花皮木雪渓が白く伸びている。乾杯のビールのうちまかったことは言うまでもない。

今日中の下山も可能だが、沢の余韻に浸りたく荒川の畔に幕。河原で焚火を楽しみ夕餉を過ごした。



9/17 晴

風の強い朝となったが、ブナ森の中は影響せず。のんびりと下って、吊橋を渡ると車デポに到着。途中、雲母温泉の共同浴場（¥100）に入って汗を流して帰京した。

金目川左俣は10年来の宿題でした。良いメンバーと天気にも恵まれ登ることができ、多謝。

【行程】

- 9/15 大規模林道ゲート（9：05）－金目川（9：15）－モチア沢（10：40）－魚止め滝上C1（12：20）
- 9/16 C1（5：45）－二俣（5：50）－標高700m付近（7：00）－奥の二俣（11：55）－稜線（14：10）－祝瓶山（14：25-45）－荒川（17：10）C2
- 9/17 C2（6：45）－大石橋/車デポ（7：10）＝帰京

【地図】五味沢 徳網 羽前上郷 羽前葉山

朝日連峰・金目川左俣 廻行図

2012年9月15日~17日 作図: 不下

